

補足資料 1

令和元年度土佐町スポーツ観光拠点施設備品購入公募型プロポーザル

◆建築設計趣旨および家具提案指定項目

本計画の骨子であるスポーツ観光拠点施設という機能を満足し地域活動のさらなる活性化と観光客や来町者の円滑な施設利用を促すための什器備品についての提案を求めるのが本プロポーザルの主目的である。本施設は現在までに基本計画策定、設計業務を経て建設工事が行われており、隣接するさめうら荘と共にさめうら湖周辺エリアの活性化に寄与するための施策の検討を重ねている。参考添付資料を参照しそれら現在までの経緯を汲んだ提案を求めるものとする。以下に建物全体と各部位ごとの性質について概要を記載するものとする。

◆施設設計趣旨

さめうら湖周辺エリアは、豊かな起伏を必要な部位ごとに造成することにより土地利用が行われている。年月の中で、自然のままの地面も、造成された地面も地続きの地形として、その上で人々の生活が営まれており、これは中山間地域の原風景でもある。元々の地形を復元は出来ないが、現状敷地は旧さめうら荘を隣接地に移転し湖に近接する部分は周囲から約2m 程度地盤面が下がったレベルとなっている。背後の山からさめうら湖までの自然と造成の地形が連続する中に、今回挿入する建築も連続する地形の一部として捉え、その上にかかる屋根は、地形の表層を覆う木々のフォルムに沿うようなフォルムを目指して屋根の計画を行った。また軒をGL+2.7m とし、前述した敷地の高低差によってアプローチする際に建物の屋根が手元に感じられる高さまで引き寄せられる事で、親近感を持つことのできる建築とした。

幅50m の長手方向に対して艇庫、カフェエリア、スポーツ観光拠点、トレーニングエリア、事務ゾーン、ハンガリー式プールが並列する構成とし、それぞれの機能が別々の個性付けられた空間としている。外装は左官による柔らかな表情のある仕上げとした。

(観光拠点エリア)

外部に間口の広い開口部を持ち引戸により一体的に利用でき、木柱により軽やかに屋根が支持された開放的な空間とした。前面の外部建具は木製（芯材アルミ）建具、内部壁はラワン合板、空間を横断するように嶺北木による展示什器を採用し、建築の一部としてトレーニングエリアと緩やかに分節できる計画とした。またトレーニングエリアとの間はテキスタイルで半透過に仕切り、湖面が建築の内部からも眺める事できる計画とした。空間全体として木の温もりが感じられる仕上げとなっている。自転車観光にも寄与する為備品として自転車ラック、製作什器として展示スタンドを算入している。

（艇庫エリア）

可動式カヌーラックと、湖面側にはラックと同様に単管パイプで構築したカフェ席を計画を行った。カフェ用家具については、スポーツ観光という性質を考慮し、アウトドアに使用できおりたたむ事のできる家具を想定している。

（インフォメーションカウンター）

今回プロポーザルの提案範囲外であるが、カウンター形状となっており、スポーツ観光の窓口とともに湖面利用の際の受付を担う。また軽食の提供程度を想定している。

（外部ウッドデッキテラス）

カヌーや湖面利用のガイダンスやレッスンができるスペースとして寄与する。休憩用の木製外部ベンチを壁面側に設置を想定している。

（湖面側テラス）

カフェ利用や湖面を眺める展望テラスとして寄与する。外部用テーブル、ベンチ、ならびに軒と地面に支持して使うことのできるタープを想定している。